

科目名	メディア社会論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科専門科目

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます(60%)。最後にテストをします(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書『メディア用語基本事典』(世界思想社)

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し

必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。

マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと助け合い
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想 (質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ (具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント (6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名) 教科書

科目名	ニュースと社会		
担当教員名	大西 正行、川口 英俊、岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はメディアコミュニケーション学科1年後期必修科目であり、ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

岡本卓ーテレビのニュース・報道番組と社会

- マスメディアと私たち (マスメディアと世論、マスメディアの影響力etc)
- テレビとインターネット (あなたはテレビ派? ネット派?、尖閣諸島沖衝突事件と映像のネット流出etc)
- テレビと政治 (報道の自由と政治 (家) の介入、政治家はテレビよりネットが好き? etc)
- テレビと戦争 (ベトナム戦争の前と後の戦争報道、“ロボット戦争” とテレビ、テレビは戦争を防げるか/止められるか etc)
- まとめ

大西正行 ? 新聞とニュース-

- 新聞と一般読者 (トップニュースは、どうして決まるか。「社会の監視」「特ダネ」「地域主義」の価値感は今...)
- 行政組織と新聞 (捜査機関等を含む役所の側の論理、取材の現場と記者クラブ)
- 企業行動と新聞 (資本の側の論理)
- 新聞と政治家の間 (第4権力の核としての新聞と政治権力)
- 新聞の論調と社会の流れ (戦前との比較も交えた、社説やコラムの世界観)

川口英俊 ? インターネット・新しいメディアとニュース-

- メディア・リテラシー (ニュースの読み方・考え方、インターネットによるニュースの読み方)
- インターネットとニュース (インターネットがニュースに与えた影響 インターネットとテレビ・新聞の「衰退」、政治とニュースとインターネット)
- インターネットによる情報発信 (インターネットによる情報発信の可能性と問題点)
- 新しいメディアとニュース (新しいコミュニケーションツール-フェイスブック・ブログ・ツイッター、you tub

e・携帯・メール)

まとめ

評価

担当者3名がレポート等によりそれぞれ評価をつけ、それを総合して(小テスト3.3割、レポート3.3割、授業を踏まえての提出物3.3割)成績を出す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

谷岡一郎「社会調査の『ウソ』」文春新書

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーションの技法 1
8	ビジュアルプレゼンテーションの技法 2
9	プレゼンテーション企画
10	プレゼンテーション制作 1
11	プレゼンテーション制作 2
12	グループプレゼンテーション発表 (グループ)
13	グループプレゼンテーション発表 (全体)
14	グループプレゼンテーション反省
15	まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信
（提出 基礎点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント）

レポート・課題...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す）

最終課題...5~10ポイント

合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：

山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。

・授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる

内容

- 1回 コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
- 2回 プレゼンテーションの基本概念
- 3回 プレゼンテーションマインドを高める
- 4回 プレゼンテーションの設計
- 5回 プレゼンテーションの極意
- 6回 プレゼンテーションの評価
- 7回 ビジュアルプレゼンテーションの技法 1
- 8回 ビジュアルプレゼンテーションの技法 2
- 9回 プレゼンテーション企画
- 10回 プレゼンテーション制作 1
- 11回 プレゼンテーション制作 2
- 12回 グループプレゼンテーション発表 (グループ)
- 13回 グループプレゼンテーション発表 (全体)
- 14回 グループプレゼンテーション反省
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:

山崎紅, 説得できるプレゼンの鉄則(PowerPoint上級極意編), 日経BP

中澤務・森貴史・本村康哲編, 『知のナビゲーター』, くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	脳とコミュニケーション		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講義は、私たちのコミュニケーションを操る脳についてのものです。私たちが誰かに自分の気持ちを伝えるとき、相手に「伝える内容」ばかりを考えますが、本当に何が伝わっているのか不明な部分が多いのです。つまり、(1) 言葉に込められた私たちの感情の情報でしょうか。(2) それとも発話方法が伝える感情でしょうか。(3) さらにには私たちの顔に現れた感情でしょうか。(2)(3)は私たちが意図しなくても伝わってしまう情報です。

私たちが、何かを想像し、行動し、結果を得るとき、いったい脳の中で何が起きているのでしょうか。言語だけではなく、視覚、聴覚、触覚など様々な角度から脳をとらえて行こうと思う。なるべく平易な授業を心がけますが、しっかり聴いて下さい。

内容

前半は脳とコミュニケーションの基本的な知識。、後半はその応用例をみていく。

1. 脳にとってコミュニケーションとは何か 導入
2. 脳はどう進化し、成長するか
3. 脳にとって視覚と聴覚とはに何か
4. 脳と味覚、嗅覚、触覚とは何か
5. 脳の可逆性と成長
6. 脳の中で感情はどう生まれるか
7. 脳に言語はどう組み込まれるか
8. 脳はどこまで騙せるか (微表情の分析)
9. 脳と性格：人によって判断が違うのはなぜか。
10. 脳と世界：広告や記事
11. 脳に男女の脳の差はあるのか
12. 知能と記憶と先入観
13. 「私」はどこにいるのか。
14. 脳とコミュニケーション
15. まとめ

評価

リアクションペーパーと課題レポート

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：森田勝之 『ダッシュ脳』マガジンハウス

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 (三省堂)

* 前期必修の「言語表現」と同じテキストです。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

* 前期必修の「言語表現」と同じテキストです。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

* 前期必修の「言語表現」と同じテキストです。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業中に書く文章および授業の取り組みで総合評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ディベート		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

一年次の前期で入門ゼミナール、後期でプレゼンテーション技法を履修してきた。これらの後に2年次前期で、このディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：ディベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：＜立論/反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	ディベート		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

一年次の前期で入門ゼミナール、後期でプレゼンテーション技法を履修してきた。これらの後に2年次前期で、このディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：ディベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	ディベート		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

一年次の前期で入門ゼミナール、後期でプレゼンテーション技法を履修してきた。これらの後に2年次前期で、このディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：ディベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：＜立論/反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	ディベート		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

一年次の前期で入門ゼミナール、後期でプレゼンテーション技法を履修してきた。これらの後に2年次前期で、このディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：ディベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』あさ出版

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々の関心はマスコミ4媒体 (新聞、雑誌、ラジオ、テレビ) から驚異的な普及でその影響力を伸ばすインターネットに移り、仕事や研究、私生活を取り巻くメディア環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と (再) 利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール = 情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー * 番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット * 番組視聴
- 11) 匿名発表 & 匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪 & 精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点 + ミニレポート40点 = 100点 60点以上が合格

* ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	メディア文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、「メディア」というものが社会においてどのような文化的基盤として機能しているのかを考えていく。書籍、ラジオ、テレビ、インターネットといったさまざまな媒体の形をとりながら、メディアは私たちの社会において「文化」、「コミュニケーション」、「ネットワーク」、「コミュニティ」などのさまざまな機能を果たしている。本講義では、伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』を教科書としながら「メディア文化」について広く学んでいく。受講者それぞれが、教科書のなかから関心のある項目を選んで発表し、その内容について受講者全員で討論し、毎回、ミニレポートを作成してもらう。

内容

1. メディア文化論とはなにか？
2. メディアの物質性と歴史性
3. 文字メディアの誕生
4. 音声メディアの誕生
5. 映像メディアの誕生
6. インターネットとウェブ
7. メディア社会の構造
8. メディア産業とその特徴
9. メディア文化のグローバル化
10. メディアの表象 (1) 人種
11. メディアの表象 (2) ジェンダー
12. メディアの表象 (3) 若者
13. メディア文化と都市空間
14. メディアの政治経済学
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

伊藤守・よくわかるメディア・スタディーズ・ミネルヴァ書房

その他、必要な教材については授業内で適宜、説明します。

科目名	放送概論		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

テレビやラジオの放送制度や放送番組を中心に研究する。具体的には実際の政治や事件、戦争などがどのように報道されているかを検証する。この意味で「時事問題を扱う他の科目と合わせて履修することを薦める。3年、4年次の卒論執筆の基礎にもなる。

マスメディアは世界、国家、社会を映す鏡である。しかし、鏡が曇っていてはそれらを正しく映し出すことはできない。特にテレビは今や、人々の生活や仕事と切っても切り離せない社会装置でありながら、「やらせ」や「捏造」、「政治（家）との関係」など様々な課題を抱えている。真に役に立ち、必要とされるテレビとはどのようなテレビなのか、という視点でテレビを考える科目である。

ただ漫然とテレビを見るのではなく、「考えながら見る」「見た後で考える」ことが重要である。とにかく人気のある番組、質の高い番組をたくさん見てほしい。そして、「もし自分がディレクターだったら」「もし、レポーターだったら」どうしよう！と考えれば、もっとテレビが身近になり、テレビが伝えることをよりよく、より正確に、より楽しく、そして、より批判的にとらえることができるようになる。

内容

- 1) ガイダンス 「放送」とは何？、「(放送)ジャーナリズムって何？」
- 2) 放送にはルールがある タイタニック号遭難の教訓、届かなければ放送じゃない、「あまねく論」
- 3) 放送と通信の融合 MSNBC の衝撃、デジタル技術が可能にしたもの
- 4) テレビの影響力 メディアスクラムと放送被害、BPO
- 5) 放送番組基準 時代/世相とともに変わる番組基準、NHK/民放比較
- 6) 放送と政治 多様性の確保と所有規制問題
- 7) 放送と政治 ケネディ対ニクソンTV討論から“劇場型報道” * 番組視聴
- 8) 放送と政治 ベトナム戦争とテレビ * 番組視聴
- 9) 放送と政治 政治権力/軍上層部と兵士 * 番組視聴
- 10) 戦争報道 ベトナム戦争の前と後
- 11) 戦争報道 BBC戦争報道ガイドライン、米従軍取材ガイドライン、自衛隊取材要綱(イラク)
- 12) 戦争報道 9・11同時多発テロとイラク・アフガン戦争、“ロボット戦争” * 番組視聴
- 13) 災害報道 被害報道から防災報道へ、国境を越える災害と国際放送
- 14) 視聴率問題 視聴率調査、視聴率至上主義の弊害、誰のためのテレビか
- 15) まとめ

評価

ミニレポート = 40点 (授業の理解度、受講生の問題意識、日常のテレビ視聴を通しての疑問点等を見るリアクションペーパー)

期末試験 = 60点

計100点 両方合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	環境と社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1.2年生対象メディア群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球閑居問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム (生態系) という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

内容

1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点 (1) : 市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点 (2) : 生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり
6	国際協力体制の発展
7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

評価

レポート (60%)、試験 (40%) で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】関礼子他 『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年; 東京商工会議所編 『eco検定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

科目名	アジア入門		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

21世紀に入り、アジアは世界経済の成長センターとしての位置づけが一層明確になった。同時に朝鮮半島の軍事対立と驚異的な経済成長に裏打ちされた中国の存在感は冷戦終結後の国際政治の大きな焦点となっている。アジアに位置する日本は、そうしたアジア各国との緊密な関係強化を抜きにして、国家レベルでも個々の企業レベルでもその将来像を描くことすら出来なくなった。

この授業はアジアを次の3つに大別し、それぞれ19世紀末以降の歴史と現状を分析・検証し、近未来について考えていくものである。なお、この授業は時事解説の側面も持つので、受講生は日々の新聞やテレビの報道に強い関心を持つことを求める。

1) 中国

アヘン戦争から日清・日露戦争、日中戦争から国共内戦、中華人民共和国の建国と大躍進政策の失敗、文化大革命から改革開放経済体制、世界の工場/消費地としての現在まで

2) 朝鮮半島

韓国併合 (朝鮮半島の植民地化) と日本敗戦、大韓民国/朝鮮民主主義人民共和国の建国と朝鮮戦争、南北対立と北朝鮮核武装の現在まで

3) 東南アジア

東西冷戦下のドミノ理論とベトナム戦争、開発独裁と地域経済、ASEANとしての地域協力機構の現在まで

内容

- 1) ガイダンス～アジアとは?、“アジアは一つ”か?、アジアの世紀は本当か?
- 2) 欧米列強のアジア進出と日本～大航海時代、アジア植民地化、アヘン戦争
- 3) 明治新政府の対アジア外交～日清露3国の思惑と日清・日露戦争、韓国併合
- 4) 日本のアジア侵略～日中戦争からアジア太平洋戦争、満州国建国と中国残留孤児問題
- 5) 日本敗戦と靖国神社～靖国神社問題と歴史教科書問題
- 6) 中華人民共和国建国～大躍進から文化大革命、中ソ論争、台湾問題 (中国代表権問題)
- 7) 朝鮮戦争と日本～日本の“再軍備”と自衛隊、自衛隊任務の変遷
- 8) 東西冷戦とドミノ理論～マッカーシズムと中国封じ込め政策、米ソ英仏中の核開発競争とNPT/IAEA体制
- 9) ベトナム戦争～米ソ代理戦争、日米安保条約/日米同盟の“完成”
- 10) 開発独裁～民主主義より“まずは経済建設”路線、日本のODA戦略
- 11) 米中接近～中ソ対立/ベトナム戦争/ニクソンショックと日中国交正常化
- 12) 中国改革開放経済体制へ～鄧小平路線/世界の工場/光と影、チャイニーズ・ドリーム、G20時代
- 13) 北朝鮮問題～北朝鮮の核武装と東アジアの安全保障、北朝鮮世襲体制の行方、日朝国交正常化問題
- 14) NPT/東アジア共同体構想と障害～尖閣/竹島問題、日中韓歴史認識問題、日米/米中/日中相関関係
- 15) まとめ

評価

ミニテスト（受講生の理解度を見るために、毎回授業終了前に10分程度をかけて行う＝一種のリアクションペーパー）＋
期末試験（またはレポート）で総合評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。資料は随時配布する。参考図書は授業中に紹介する。

科目名	エンターテインメントメディア論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、グローバル化が進むにつれて世界中で視聴されるようになったハリウッド映画のいくつかの作品を視聴し、その面白さの根源がどこにあるのか、また世界中で見られる映像としてそこで描かれている事物がどのような意味を持ちうるのか、といった点についてグループワークを中心に分析していく。授業で扱うのは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ターミネーター2』など、誰もが一度は見たことがある(だろう)作品である。授業内では、実際に映画を視聴し、映画理論に関する論文を輪読し、「ハリウッド脚本術」と呼ばれるその独特の脚本構成の分析や映像表現技術の検討を通じて、エンターテインメント性とはなにか、またその概念が孕む問題点について考えていく。

内容

1. エンターテインメントメディアとは何か？
2. エンターテインメントメディアの構造 (1) ストーリーと脚本
3. エンターテインメントメディアの構造 (2) キャラクター
4. エンターテインメントメディアの構造 (3) フレームと編集
5. エンターテインメントメディアの構造 (4) イデオロギー
6. エンターテインメントメディアの分析 (1)
7. エンターテインメントメディアの分析 (2)
8. エンターテインメントメディアの分析 (3)
9. エンターテインメントメディアの分析 (4)
10. エンターテインメントメディアの分析 (5)
11. エンターテインメントメディアの分析 (6)
12. エンターテインメントメディアと映画理論 (1)
13. エンターテインメントメディアと映画理論 (2)
14. エンターテインメントメディアと映画理論 (3)
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

藤井仁子 『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー1』フィルムアート社

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー2』フィルムアート社

純丘曜彰 『エンターテインメント映画の文法 : ヒットを約束する脚本からカメラワークまで』フィルムアート社

ニール・D.ヒックス『ハリウッド脚本術：プロになるためのワークショップ101』 フィルムアート社

*必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	マンガ・アニメ論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史 (1) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史 (2) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史 (3) 少女マンガの世界
5. マンガと表象 (1) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象 (2) 恋愛の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史 (1) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史 (2) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史 (3) アニメ映画の世界
11. アニメと表象 (1) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象 (2) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストとプリントを配布します。

科目名	インターネット社会論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。高度情報社会といわれる現代社会では、インターネットに関する正しい知識と社会における役割を理解することが重要とされており、それに対応した科目である。

科目の概要

大きな柱として、次の2つの内容で構成する。

- ・インターネットの概要と仕組みの理解

インターネットに関する技術的な基本となる知識・理解を中心に構成する。インターネット検定 .com Master BASIC 相当の内容とする。

- ・インターネットが社会に与える影響

インターネットを取り巻く社会環境の変化や新しい技術が世の中に展開していく上での、社会的諸問題についても議論及び考察を行い、我々が認識すべき課題について明らかにする。

学修目標

- ・インターネットの概要と仕組み、利活用方法について理解する。
- ・インターネットのコンテンツやサービスの正しい知識を身につけ、社会との関わりを考察できる。
- ・高度情報社会での変容に的確に対応できる能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション
2	インターネットの概要と歴史
3	インターネットの構成
4	情報機器の活用とインターネットへの接続
5	インターネットの活用
6	インターネット社会の安全性・モラル
7	データで見るインターネット
8	情報行動の意味と捉え方
9	情報行動と情報社会とのつながり
10	インターネットや携帯電話の利用と効果
11	SNSとオンラインコミュニティーの生成
12	インターネットに見る事件
13	情報倫理の金本
14	インターネット社会と流動性
15	まとめ

評価

レポート50%、試験50%により評価をおこない、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア4媒体と新領域メディアに至るメディアビジネスを概観し、コンテンツの重要性を押さえながら、今後を展望する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境さとともに、インターネット、電子書籍、携帯電話等の展開を学ぶ。

学修の目標

- 1 日々、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス面からメディアリテラシーを高める。
- 2 メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

1	ガイダンス (ネット社会における新聞の明日から説き起こす)
2	総論 メディアの変貌の中のロマンとソロバン
3	全国紙ビジネスの今
4	通信社と地方紙
5	編集者と出版界
6	電子書籍と紙の本
7	本ができるまでと本の出版
8	テレビ概論
9	テレビの番組制作とビジネス
10	ラジオのラジコという試み
11	業界専門紙の生き方
12	広告ビジネス概観
13	広告代理店の今
14	インターネットビジネス
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で、60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目分類 専門科目メディア

概要：「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標：現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容

1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト（40％）および期末レポート（60％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン 『文化帝国主義』 青土社 361.6/T

田中浩編著 『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目として、人間のコミュニケーション行動に興味をもつ学生を対象とする。コミュニケーション行動を科学的に理解する基礎を身につける。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション (要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	教育とメディア		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア (1)
6	子どもと情報メディア (2)
7	情報教育とメディアリテラシ (1)
8	情報教育とメディアリテラシ (2)
9	メディアを活用した新しい学習 (1)
10	メディアを活用した新しい学習 (2)
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発 (1)
13	メディアを活用した教材の開発 (2)
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題（3～4）を合計60%と、教材開発40%で評価をおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	政治とメディア		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上対象のメディア群科目として、政治についての情報の流れについて学ぶ。

人々が政治についての情報を入手する方法は色々ある。その中でも、職業として政治にかかわる人々 (政治家、官僚) も、素人として政治に参加する人々 (有権者) が最近特に注目しているのがマスメディアとインターネットメディアである。授業では、この2つを取り上げ、それぞれの特徴や問題点を議論する。また、情報のグローバル化が政治コミュニケーションに及ぼす影響についても考察する。

人々がメディアを通じてどのように政治情報を発信、受信しているか、発信している側の意図は何か、それを受信する側は何を感じるかなど、政治コミュニケーションの現状を理解する。

内容

1	政治コミュニケーションとは何か
2	発信者と受信者の関係 (1) : 直接対話
3	発信者と受信者の関係 (2) : 間接対話
4	マスメディアの自由
5	マスメディアの制約
6	マスメディアと世論
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア (1) : 選挙キャンペーン
11	政治参加の方法としてのメディア (2) : 政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの国際比較 (1) : 欧米諸国
14	政治コミュニケーションの国際比較 (2) : アジア諸国
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】蒲島郁夫他 『メディアと政治』有斐閣アルマ 2007年

【推薦書】遠藤薫 『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局 2011年

【参考書】平田オリザ、松井孝治 『総理の原稿』岩波書店 2011年

科目名	地域メディア論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

時折り見受けられる首都圏在住者の錯覚は、いわゆる全国紙、いわゆるテレビのキー局がメディアの総称と考えがちな点であり、実際の世論形成は、全国にあっては、その地域の有力地方紙、地域民放などの影響力が強く、県民・市民の評価を受けていることが多い。本講義では、この実態を踏まえて、特に、県のメディア企業(埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたま、共同通信社さいたま支局、NTTドコモ埼玉支店)等の具体的な活動、ビジネスからメディアを見つめ、地域メディアの意義、メジャーマスコミとの違いなどを学ぶ。

内容

1	ガイダンス
2	地元新聞の展開に見るメディア論 1
3	地元新聞の展開に見るメディア論 2
4	地元テレビ局の展開に見るメディア論 1
5	地元テレビ局の展開に見るメディア論 2
6	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 1
7	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 2
8	地元のニューメディア論 1
9	地元のニューメディア論 2
10	地元のニューメディア論 3
11	活字文化と地域 1
12	活字文化と地域 2
13	地域にメディアは何をもたらしているか (メジャーマスコミと地域)
14	メディアが見つめる地域 (メジャーマスコミと地域)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は、「再試験」を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度指示。

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

以下を身につけることをねらいとする。

1. 政治過程に関する知識を身につける

私達の将来を決める政治的決定や、決定そのものを決める決定（ルール）、さまざまな状況、世界とのつながり、人のかかわりから決定が生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼び、選挙などを通してこの決定に関わる私たちはその知識を身につける必要がある。

2. ものの見方を学ぶ

知識を覚えるだけでは充分でない。バラバラの知識を覚えるだけでなくそれをどう見るかという「もの見方」が必要となってくる。

3. 政治についてデータ・論理に基づいた議論ができるようにする

どの「もの見方」が正しいかを考えるためには、裏打ちする数字や事実などのデータ、他のもの見方との比較による一つの「論」を作る必要がある。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 政治制度 - 議院内閣制
- 3 立法過程 - 予算と法律
- 4 立法過程 - 政策決定過程
- 5 立法過程 - ねじれ国会
- 6 政策決定システム - 議院内閣制
- 7 政策決定システム - 連立政権
- 8 前半まとめ
- 9 財政赤字と諸問題 - 福祉国家論と小さな政府
- 10 財政赤字と諸問題 - 財政危機と社会保障
- 11 現代日本政治の諸問題 - 2009年衆議院選挙と政権交代、自民・公明党政権の降板
- 12 現代日本政治の諸問題 - 民主党政権の「迷走」
- 13 現代日本行政の諸問題 - 震災復興と政治行政
- 14 現代日本行政の諸問題 - 政治家と官僚、「政治主導」とは？
- 15 後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価による

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第2版』一藝社

科目名	国際関係論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上対象のメディア群科目として、国際社会の全体像を理解する。

国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物 (アクター)、出来事 (ストーリー) という視点でとらえ、20世紀後半の国際問題の流れを再考する。その上で21世紀の国際社会が直面している問題の特徴を探る。新たな情報手段や科学技術の登場によって、これまでとは異なる国際問題が発生する可能性についても論じる。

国際社会の動きと日本、さらに日本国内で身の回りに起きている出来事との関連性を理解し、国際社会が日本から遠いところで、自分に関係なく動いているのではないことを学ぶ。

内容

1	国際社会への視点：日本の役割
2	20世紀の国際関係 (1) : 冷戦の始まり
3	20世紀の国際関係 (2) : 冷戦の終結
4	地域紛争 (1) : 歴史
5	地域紛争 (2) : 現状
6	テロリズム
7	南北問題 (1) : 格差
8	南北問題 (2) : 貧困
9	環境問題 (1) : 地球環境問題
10	環境問題 (2) : 国際協力
11	人権問題
12	国際社会の協力関係 (1) : グローバリゼーション
13	国際社会の協力関係 (2) : リージョナリゼーション
14	21世紀の国際社会と日本
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】原彬久 『国際関係学講義 (第4版) 』有斐閣 2011年

【推薦書】渡邊啓貴編 『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ 2008年

【参考図書】猪口孝 編 『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年

東大作 『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』 岩波新書 2009年

科目名	映像文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、イギリスおよびその関連諸地域で製作されたいくつかの映画を視聴し、映像を通じた文化の表現とその広がりについて分析していく。だれもが見て楽しむことのできる映画には、実は、社会問題や文化と政治に関係するトピックスがたくさん隠されている。特に、イギリスとその関連諸地域で製作された映画には、「ジェンダー/セクシュアリティ」、「ファッションと音楽」、「階級と教育」、「帝国主義と人種、ナショナリズム」、「食文化とライフスタイル」、などの様々な論点を読み取ることができる。個々のテーマが映像の中でどのように表現され、視聴する私たちにどのような知識や争点を与えてくれるか、という点に着目しながら、具体的に映像を分析・理解していく。

内容

1. イギリス映画の歴史とその特徴
2. 階級と教育 (1)
3. 階級と教育 (2)
4. ファッションと音楽 (1)
5. ファッションと音楽 (2)
6. ジェンダー/セクシュアリティ (1)
7. ジェンダー/セクシュアリティ (2)
8. ジェンダー/セクシュアリティ (3)
9. 食文化とライフスタイル (1)
10. 食文化とライフスタイル (2)
11. 帝国主義と人種、ナショナリズム (1)
12. 帝国主義と人種、ナショナリズム (2)
13. 帝国主義と人種、ナショナリズム (3)
14. 映像文化とイデオロギー
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子 『映画でわかるイギリス文化入門』 松柏社

狩野良規 『スクリーンの中に英国が見える』 国書刊行会

吉田徹夫、村里好俊、高瀬文広 『映画で楽しむイギリスの歴史』 金星堂

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	雑誌文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットなどの電子メディアが勢いを増しつつある今日、紙媒体のメディアである「雑誌」と雑誌が形成する文化は衰退の危機にあるとも言われている。本講義では、衰退しつつある雑誌文化が、現在、電子メディアに対抗(ないしはそれと共存)するためにどのような手法を用いているのか、という視点から、現在までの雑誌文化の歴史とその役割について学習し、グループワークを通じて紙の雑誌と電子媒体による雑誌、それぞれの特徴について検証し、電子媒体による新しい形態の雑誌のあり方も含めた今後の雑誌文化のありかたについて考察していく。実際に、編集や出版に携わっている特別講師を招いて、雑誌文化の現状について具体的に講義をしてもらう予定である。

内容

1. 雑誌とその周辺の文化に関する基礎講座
2. 雑誌文化の歴史 (1) 戦前編
3. 雑誌文化の歴史 (2) 戦後編
4. 雑誌文化の現状 特別講師による講義
5. 雑誌文化の研究 (1) [女性誌編]
6. 雑誌文化の研究 (2) [女性誌編]
7. 雑誌文化の研究 (3) [男性誌編]
8. 雑誌文化の研究 (4) [男性誌編]
9. 雑誌文化の研究 (5) [文化系編]
10. 雑誌文化の研究 (6) [情報誌編]
11. 雑誌文化の研究 (7) [文芸誌編]
12. 雑誌文化の研究 (8) [電子メディア編]
13. 雑誌文化の研究 (9) 比較と検討
14. 今後、雑誌文化はどのように展開していくのか？
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

* 必要に応じて、授業内で紹介し、プリントなどを配布します。

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修かもくである。

科目の概要

インターネット上での様々な経済取引が拡大している。そこで、本講義では、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げることとする。インターネットの仕組みや歴史からスタートさせ、インフラ系の事業からインターネット上のショッピング、そして企業間取引までの問題を幅広く扱う。また、インターネットを巡る諸問題についても扱う。

学修目標

インターネットに関わるビジネスモデルについて理解する。

内容

- 1．インターネットの歴史と仕組み
- 2．情報通信産業の規制緩和
- 3．認証システムと暗号化
- 4．ユビキタス社会
- 5．6．SNSと動画配信
- 7．8．検索サイト
- 9．インターネットのショッピングサイト
- 10．情報公開とインターネット
- 11．インターネットと政府の政策
- 12．通信と放送の融合
- 13．携帯電話産業とインターネット
- 14．コンテンツ産業
- 15．まとめ

評価

毎回の課題 (30%)、最終のレポート (70%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	ブランド戦略		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

私達の周りには数多くの「ブランド」が存在します。一般的には多くの若い女性が憧れるルイビトン・フェラガモ・グッチ等の世界的な知名度を持つ「ブランド」が有名です。でも、私達の身の回りにはシャンプーではラックス・椿・エッセンシャルなど、飲料ではコカコーラ・午後の紅茶・おーいお茶など、自動車ではクラウン・フィット・カローラなど、毎日を「ブランド」に囲まれて生活していると言っても過言ではありません。

そこで私達が「ブランド」を理解することは、身の回りに存在する多くの商品からの選択をする眼を養い、生活を豊かにすることに役立つと思います。一方商品やサービスを提供している企業に取っては「ブランド」の開発・育成は事業の発展に必要な要件ですが、企業が考える「ブランド」開発の狙いを知ることは、私達が「企業（会社）」を理解する上で大変有意義なことだと考えます。

授業では「ブランド」の定義、意義、価値について説明すると同時に、「ブランド」開発の過程や育成の方法についても具体例をお話しながら分かり安く解説をしたいと考えています。

「ブランド戦略論」を理解することは、日々の生活を充実させるために大切なことです。また同時に就活時の企業の選び方、また会社訪問の際の面接で色々な点で優れた状況を作る事になると思います。

ただ、「ブランド」を理解するには「マーケティング」の知識は大変重要です。日々変化する社会にあってマーケティングについて理解を深め、毎日を豊かな気持ちで生活するために幅広い視点で授業を進めて行く予定であります。

内容

1	授業全体の流れを概観すると同時に、「ブランド」とは何かを理解する。
2	「ブランド」開発に必要な「マーケティング」理論について解説する。
3	「マーケティング」の歴史的考察と同時に「経営学」との関係性を解説する。
4	創造的「マーケティング」発想の構造について説明する
5	創造的「ブランド」開発の基本的考え方について解説する。
6	情緒的ブランド価値（ビトン等）と機能性価値ブランド（ラックス等）の相違点を解説する。
7	創造的「ブランド」を育成するための基本と、その過程について説明する。
8	創造的「ブランド」創出と商品開発の実例を解説する。
9	ヒット商品誕生のための要因を整理し商品開発の基本を理解する。
10	商品開発とリサーチの関係について具体例を上げて解説する。
11	「ルイ・ビトン」を事例に「ブランド」の歴史や意義について深く理解する。
12	「ブランド」を創出し育成するための組織のあり方について説明する。
13	社会の変化に対応した「ブランド」の有り方について解説する。
14	「ブランド論」を理解することで、日本企業を元気にする処方箋を考える。
15	まとめ（「ブランド論」の理解を確認する）

評価

本講座における評価方法は、原則として出席の3分の2以上を満たして上で、期末テスト（ペーパーテスト）等により総合評価をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『目盛りを変える 日本が見える』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

『企業改革への道 - 顧客視点の発想 - 』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

科目名	広告デザイン		
担当教員名	木村 政司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業イメージ、ブランドイメージ、メディア戦略を、益々変容する広告表現とその手法に学ぶことで、これからの人や社会に対してどんな価値を提供でき、影響を与えることができるのかを学ぶ。また、ここでは特にデザインのチカラが発想と思考、ライフコンセプトを他領域の知とセンスよく融合することによって提案できる可能性を掴む。

今までの常識が覆される新しい時代の広告の役割、メディアの種類、マーケティングコミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験してみる。

毎回配布される画像資料や解説シートを確認しながら講義を進行し、ノートを取り、リテラシーを深める。出題された課題を次の講義までに仕上げ、学習効果を確認していく。

1. 自らを知るためのデザインを体験する。
2. 広告の基礎と役割を理解する。
3. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
4. 知的、グッドセンス、お洒落をデザインすることで影響を与える。
5. 自分を戦略的にデザインする。

内容

- 01 セルフプロモーション&プレゼンテーション 自分の未来をデザインする
- 02 広告にとってデザインは如何に機能しているのか？ 私の好きな広告デザイン
- 03 広告の役割と種類を理解する 広告を分類する
- 04 広告表現のための仕掛け 広告表現に基準と常識は存在しない！
- 05 コミュニケーション戦略からデザイン表現戦略へ いい広告、わるい広告、つながる広告
- 06 メディアの特性を考える デザインの発想がメディアの役割を変える
- 07 販売促進のためのデザイン ヒットをつくるためのデザイン戦略を立案する
- 08 言葉とヴィジュアルの出会い 言葉のチカラを掴む
- 09 ブランディング ブランドそのものの広告力から文化を創造する
- 10 売るためのデザインから考え方に変化をもたらすデザイン ネット社会の未来を創造する
- 11 私を表現するためにデザインする マイ・アドを制作し自らのブレイクスルーを試みる
- 12 キャッチコピーとボディ コピー、写真を撮る
- 13 広告の未来 デザインが広告の未来をどう変えるのか？
- 14 マイ・アドのプレゼンテーション マイ・アドの鑑賞・批評会
- 15 まとめ

評価

各回の課題レポート (50%) 広告表現課題提出と質 (40%) レポート (10%) により評価し、60点以上を合格とす

る。また、三分の二以上の出席をすることで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない（配布するプリントのみ使用）

科目名	雑誌・ミニコミ編集		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

文章に見出しや写真を組み合わせることにより一覽性の紙面を作り上げることが「文章力」「編集力」を高める。この相互メリットを生かし、2つの力量とともに、取材力に繋がるコミュニケーション能力、洞察力も養う。

内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業の取り組みを取材し、成果物として「埼玉メディアニュース夏季号」（仮称）を受講者全員で作り上げる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5などが考えられる。（履修の人数を制限します）

評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社）

科目名	DTP基礎		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年以上経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家でなくとも編集レイアウトが出来て、ちょっとしたコツを覚えれば、誰でもページを美しく仕上げる事が出来るようになりました。

この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、編集に慣れていなくても、ひとまずコンピュータでマガジン制作してみたい人に体験いただける内容です。

「マガジン制作ワークショップ」を受講された方はステップアップ編として位置付けることができます。また「DTP 応用」を受講される方は、その前の受講をお勧めします。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・DTP 基礎知識
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	DTP応用		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年以上経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家でなくとも編集レイアウトが出来て、基本ルールを覚えれば、さらに美しく日本語を組むことが出来るようになりました。この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、DTPや組版の基礎から応用を学んでいきます。「DTP 基礎」を受講された方は、ステップアップ編として位置付けることができます。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・プリプレス基礎知識
- ・DTP 基礎知識
- ・組版基礎
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	Webデザイン基礎		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科のメディア関連の専門科目である。情報処理演習I・IIを受けて、情報発信の手段のひとつとして、Webページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

学修目標

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる。

内容

1	授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	レイアウト(横の分割)
8	レイアウト(縦の分割)
9	z-indexを使用した自由なレイアウト
10	スクロールバーなどのデザイン
11	ID・Classを使った統一的なデザイン
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業時の提出課題、および最終課題への取り組みと相互評価への参加度を評価し、60点以上(100点満点)を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】なし

【参考図書】JIS X 8341-3、他、授業時に指示する。

科目名	Webデザイン応用		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

Webデザイン基礎の制作手法を踏まえ、応用ではより発展的なWebデザインを学習します。

科目の概要

HTML・CSS等、制作手法に関して、引き続き応用的に学習する。

講義の後半では、それを踏まえ、個人・グループ単位で実際にWeb構築・評価を行う。

また、応用という事で、商業広告レベルの表現の考察も織り交ぜていく。

実際のサイトをサンプルにUI・UX分野また、数値解析・マーケティング分野を学習する。

学修目標

個人・グループ単位で実際にWeb構築・評価ができる。

内容

1	授業の進め方について
2	Web構築のディレクション (フロントエンド・バックエンド、職能・ディレクション)
3	Webデザインの役割 (UI: ユーザインタフェースとUX: ユーザエクスペリエンス)
4	HTMLとCSS
5	HTMLとCSS
6	HTMLとスクリプト
7	HTMLとスクリプト
8	課題制作 (デザインの検討)
9	課題制作 (Webページ制作)
10	課題制作 (Webページ作成)
11	課題制作 (Webページ作成)
12	課題制作 (Webページ作成)
13	Webサイトの分析と評価 (アクセス解析ツール)
14	Webサイトの分析と評価 (マーケティング手法)
15	総括

評価

Webページの作成・課題制作 6割

レポート 4割

で評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示します。

科目名	映像編集		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなぎます。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。

従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用します。

構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかどうか重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、ノンリニア編集機を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事 (方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む (キャプチャーする)
6	ビデオ編集用のソフトウェアについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ (音楽、効果音) 。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とします。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	ラジオ番組制作		
担当教員名	勝田 裕之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、メディアコミュニケーション学科の一環として、ラジオ番組制作の実際を学ぶものです。特に制作者の立場に立つことによって、メディアによる表現とは何かを体験的に身につけることを目的とします。

授業では、教室内で実際にラジオ番組を作ることによって、ラジオの理論と実技を学んでいきます。学修目標は次の3点です。ラジオの特性(災害報道に強いメディア 想像力を刺激するメディア)を認識する。ラジオ番組制作の実体験からメディアコミュニケーションとは何かを理解する。制作者の立場を経験することによって、日ごろ受動的に視聴しているメディアのコンテンツを客観的に、批判的に理解する能力を身につける。

内容

1	ラジオの特性と利点 (講義)	実際のラジオ番組を聴きながら	機材説明
2	ラジオの特性と利点 (講義)	実際のラジオ番組を聴きながら	
3	ラジオの特性と利点 (講義)	実際のラジオ番組を聴きながら	
4	ディスクジョッキー番組を作る	グループ分け	役割分担 打ち合わせ
5	各グループ内容検討	テーマを決める	
6	各グループ内容検討	音楽準備	
7	収録 (パッケージ)		
8	収録 (パッケージ)		
9	再生・視聴		
10	再生・視聴		
11	ニュース番組を作る	ニュースとは	ニュース文章の書き方 (講義)
12	" 素材を拾う	素材のニュース化	
13	" ニュース作成		
14	" 収録 (パッケージ)		
15	" 再生・視聴	授業全体のまとめ	

評価

期末レポート (50 点)、各完成作品 (50 点) により評価し、合計 60 点以上を合格とする。
なお 3 分の 2 以上出席することで、評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 「ラジオは脳にきく」 和歌山県立医大教授 板倉徹 東洋経済新報社

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はメディアコミュニケーション学科専門科目のコミュニケーション領域に属する選択科目です。この科目を履修したのち、統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「ナレーションB」と「英語音声学」で学ぶので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はこれら4科目すべてを履修してください。また、「ことばと文化」、「ことばと社会」も言語学に関連する科目です。

対象言語としては主に日本語と英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学びます。

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト (毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います): 30%

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばと文化		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	異文化理解		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は諸外国 (アメリカ、カナダ、イギリス等) の歴史、言語、文化の研究を通して異文化に触れ、より深く理解し、留学や研修で必要かつ十分な理解を得ようとするものです。特に歴史と文化はそれぞれの国に特有の傾向と相互影響がみられるので、相違点と類似点を考察することが特に大切である。また、多言語であるカナダと英語圏であるアメリカ、イギリスの傾向を知ることは歴史や文化、国民意識を知る上で重要である。

内容

- 第 1 回 : 導入 : 異文化理解とは
- 第 2 回 : イギリスの歴史 (1) 産業革命まで
- 第 3 回 : イギリスの歴史 (2) 産業革命、アメリカへの移民
- 第 4 回 : アメリカの歴史
- 第 5 回 : カナダの歴史
- 第 6 回 : イギリス文化
- 第 7 回 : アメリカ、カナダ文化
- 第 8 回 : イギリス、アメリカ、カナダの言語
- 第 9 回 : イギリス、アメリカ、カナダの風習
- 第 1 0 回 : イギリス、アメリカ、カナダの習慣
- 第 1 1 回 : イギリス、アメリカ、カナダ憲法
- 第 1 2 回 : イギリス、アメリカ、カナダ社会制度と価値観
- 第 1 3 回 : イギリス、アメリカ、カナダにおける人種
- 第 1 4 回 : イギリス、アメリカ、カナダ宗教、グローバル化
- 第 1 5 回 : まとめ

評価

平常点 (3 0 %) リアクションペーパー (2 0 %)、レポート (5 0 %) による。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリント

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科選択必修科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 (言語、非言語) が充分でないからなのか、それとも、考え方 (文化) が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容

1	異文化コミュニケーション研究の歴史 (1) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 (2) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション (1) ; 動作
7	非言語コミュニケーション (2) : 外見
8	言語によるコミュニケーション (1) : 言語
9	言語によるコミュニケーション (2) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房 2010年

【推薦書】鍋倉健悦 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー 1997年 ; 石井敏 他 『異文化コミュ

ニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	サブカルチャー論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど (音楽)、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など (文学)、お笑いや韓流ドラマなど (テレビ番組)、W杯やオリンピックなど (スポーツ)、携帯電話やSNSなど (インターネット) といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

内容

1. サブカルチャー論とはなにか?
2. サブカルチャーを分析するための理論 (1) 世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論 (2) 日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論 (3) スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論 (4) プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論 (5) 人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる (1)
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる (2)
9. サブカルチャーの調査と観察 (1)
10. サブカルチャーの調査と観察 (2)
11. サブカルチャーの調査と観察 (3)
12. サブカルチャーの調査と観察 (4)
13. サブカルチャーの調査と観察 (5)
14. 合同研究発表会
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	音声表現論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、近頃の若者は人の話を聞いても理解できないとか、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが下手だとか、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。

「聞く力」「話す力」を育てることは就職活動に有利であるとか、将来社会に出たときの必須の能力だとかいうことに止まらず、好ましい人間関係を築いていく上で不可欠のことなのです。この授業では話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習をとおして学びます。また話を真剣に聞いてポイントをつかむことも大切です。この講座で「聞く力」「話す力」を養って下さい。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞く、文章を読んだりスピーチをしたりする。それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントをつかむことに努める。その繰り返しで理解力と表現力、構成力を付けていくことを目指します。アナウンサーとしての体験を盛り込みながら授業を進め、日本語表現の素晴らしさを伝えたいと考えています。

授業では概ね次のようなテーマを取り上げます。

人の話を聞いて理解する 会話を磨く 自己紹介と話しことばのコミュニケーション
 発声と発音 声に出して読む スピーチ 話の組み立て 報告・レポート・プレゼンテーション
 インタビューと取材 敬意表現 子どものことばと教育

評価

授業での演習の成績 (40%)、口頭発表 (30%)、レポート (20%)、授業への貢献度 (10%) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】「話しことばの花束」(好本恵著・リヨン社)

【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で指示や説明があります。

科目名	ことばと社会		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します

科目名	情報とデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 具体的には、絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、インタラクティブ性も持つWebページを作成する過程で、スキル等を発展してもらう。その瞬間に、まさに旬なものまたは小中高の教材を題材にして、Webページを作成する。旬なものは題材として幅が広く興味を持ちやすく時間軸を意識せざるを得ない。小中高の教材は幅が広く身近であり系統だっている。どちらも、内容によって表現のしやすさに違いが生じることが理解しやすい。表現について改めて考えるきっかけとしやすい。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのWebページの特徴を理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	Webページの比較 多様な機関のWebページを考察し、ページの条件について考察する。
3	既存メディアとの比較 新聞、ラジオ、テレビ等の既存メディアとWebページの比較を行う。
4	サウンドの位置づけ Webページにおけるサウンドの分類、特徴等、位置付けを行う。
5	インタラクティブ性 Webページの特徴であるインタラクティブ性の考察を行う。
6	テーマの決定 (1) 各自が表現したい、過去に遡れるような時間を意識したテーマを決定する。
7	テーマの決定 (2) 各自が表現したい、その瞬間にまさに旬なテーマを決定する
8	テーマの決定 (3) 各自が表現したい、幅広く展開できるテーマを決定する。
9	素材の作成 (1) デジタルカメラやスキャナなどを用いて、必要な静止画像を作成する。
10	素材の作成 (2) デジタルビデオカメラなどを用いて、必要な動画画像を作成する
11	素材の作成 (3) ICレコーダなどを用いて、必要なサウンドを作成する。
12	作成 各素材を合成して、Webページを作成する。
13	閲覧 受講生相互に作成したWebページを閲覧してもらい、評価してもらう。
14	修正 評価に基づき、Webページを修正する
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品 (15点) を、150点満点 (15X10点満点) で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	情報とデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 具体的には、絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、インタラクティブ性も持つWebページを作成する過程で、スキル等を発展してもらう。その瞬間に、まさに旬なものまたは小中高の教材を題材にして、Webページを作成する。旬なものは題材として幅が広く興味を持ちやすく時間軸を意識せざるを得ない。小中高の教材は幅が広く身近であり系統だっている。どちらも、内容によって表現のしやすさに違いが生じることが理解しやすい。表現について改めて考えるきっかけとしやすい。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのWebページの特性を理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	Webページの比較 多様な機関のWebページを考察し、ページの条件について考察する。
3	既存メディアとの比較 新聞、ラジオ、テレビ等の既存メディアとWebページの比較を行う。
4	サウンドの位置づけ Webページにおけるサウンドの分類、特徴等、位置付けを行う。
5	インタラクティブ性 Webページの特徴であるインタラクティブ性の考察を行う。
6	テーマの決定 (1) 各自が表現したい、過去に遡れるような時間を意識したテーマを決定する。
7	テーマの決定 (2) 各自が表現したい、その瞬間にまさに旬なテーマを決定する
8	テーマの決定 (3) 各自が表現したい、幅広く展開できるテーマを決定する。
9	素材の作成 (1) デジタルカメラやスキャナなどを用いて、必要な静止画像を作成する。
10	素材の作成 (2) デジタルビデオカメラなどを用いて、必要な動画像を作成する
11	素材の作成 (3) ICレコーダなどを用いて、必要なサウンドを作成する。
12	作成 各素材を合成して、Webページを作成する。
13	閲覧 受講生相互に作成したWebページを閲覧してもらい、評価してもらう。
14	修正 評価に基づき、Webページを修正する
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品 (15点) を、150点満点 (15X10点満点) で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	舞台表現A（日本）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

科目の概要

主に歌舞伎を取り上げ能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え本質を明らかにします。宝塚やミュージカル、アニメーションにも対象を広げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて、役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容

文献、脚本研究のほか、ビデオ観賞、絵画資料からの検証をまじえ視覚的に演劇をとらえて学びます。絵画資料については、主に浮世絵を取り上げます。2008年には浮世絵の検証をもとに元禄時代の上方の舞台復元（プロジェクトには藤澤も参加）が行われ、また歌舞伎の衣装の考証にも用いられるなど浮世絵は資料的な価値が高く、歌舞伎研究には不可欠な資料です。

以下のスケジュールで授業を進めます。

ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ

能・狂言の歴史と魅力

歌舞伎の舞台構造を知る～能舞台の模倣時代から現代のコクーン歌舞伎まで

歌舞伎を創る 元禄上方和事復活上演までの軌跡・衣裳と浮世絵

市川團十郎と江戸の信仰

歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信

歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語

歌舞伎と広告 「外郎売」など

浮世絵に見る歌舞伎 歌舞伎役者の人気を知る

歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演

歌舞伎と海外の演劇（1）京劇（中国）・パンソリ（韓国）等アジアの芸能

歌舞伎と海外の演劇（２）シェイクスピアと蜷川幸雄

海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」

現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台

現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。【参考書】開講後に指示。

授業時には毎回プリントを配布します。

科目名	舞台表現 B (欧米)		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の選択必修科目である。本科目では、現代のアメリカを中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇 (舞台芸術) の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

内容

1	Introduction
2	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (1)
3	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (2)
4	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (1)
5	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (2)
6	キャノンへの挑戦 (1)
7	キャノンへの挑戦 (2)
8	キャノンへの挑戦 (3)
9	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (1)
10	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (2)
11	バレエとモダンダンス (1)
12	バレエとモダンダンス (2)
13	パフォーマンス・アート (1)
14	パフォーマンス・アート (2)
15	まとめ

評価

期末テスト (60%)、授業態度 (10%)、提出物 (30%) で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	文化と文学A（日本文学）		
担当教員名	平野 多恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

仏教はインドから中国を経て日本に伝わった。仏教は日本に根付き、日本の文化や文学と深く影響を与えている。本授業では、仏教思想の基本を学んだ上で、仏教の影響を受けた日本文学を読み解いていく。これによって、日本文学における仏教の影響を具体的に学び、日本における仏教文学について理解を深める。

内容

- 1 仏教とは？
- 2 日常語でたどる仏教。仏教の伝播
- 3 仏教の伝播
- 4 釈尊の教え
- 5 釈尊の教え 、インド仏教の展開
- 6 インド仏教の展開 、仏像でたどる釈尊の一生
- 6 日本文学で読む釈尊の伝記 『三国伝記』『今昔物語集』
- 7 日本文学で読む釈尊の伝記 釈迦八相…降兜率、託胎
- 8 日本文学で読む釈尊の伝記 『梁塵秘抄』の仏伝歌謡、託胎、出胎
- 9 日本文学で読む釈尊の伝記 出家1（四門出遊）
- 10 日本文学で読む釈尊の伝記 出家2
- 11 日本語における表記・文体の変遷（今昔物語集の文体）
- 12 日本文学で読む釈尊の伝記 降魔
- 13 日本文学で読む釈尊の伝記 初転法輪、涅槃
- 14 映画『釈迦』鑑賞
- 15 まとめ

評価

平常の受講態度（10点）、授業中に提出するリアクションペーパー（40点）、学期末試験（50点）により評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜プリントを用意します。

科目名	文化と文学B（英米文学の流れ）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア（人間の発見）
- (4) 18世紀・・・小説の始まり（写実と諷刺の精神）
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン（非日常と日常）
- (6) ローマン派詩人（感情の解放）
- (7) ヴィクトリア朝の小説（ディケンズとブロンテ姉妹）
- (8) イギリス児童文学（ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター）
- (9) 世紀末文学（審美主義）
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説（ジョイスとウルフ）
- (11) 生命の哲学（ロレンスとフォースター）

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説（ホーソンとメルヴィル）
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学（アメリカの悲劇）
- (14) 20年代の「失われた世代」（虚無と退廃の戦後文学）
- (15) 30年代の社会主義文学とその後（現代文明批判）

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	文化と文学C（英米小説と女性）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代の新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

内容

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる他の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな有りようを作品に即して辿り、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性を、時代背景と照らし合わせながら、具体的な場面設定の中で捉える。その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日的な意味を探る。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メイクピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』
- 第10回： E・M・フォースター『ハウズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礪臼』

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	文化と文学D（児童文学）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、アメリカ及びイギリスを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	19世紀イギリス ルイス・キャロル "Alice's Adventures in Wonderland" 他
3	19世紀アメリカ（1） ルイザ・メイ・オルコット "Little Women" 他
4	19世紀アメリカ（2） マーク・トウェイン "The Adventures of Tom Sawyer" 他
5	20世紀イギリス（1） ピアトリクス・ポター "The Tale of Peter Rabbit" 他
6	20世紀イギリス（2） J.R.R.トールキン "The Hobbit; or, There and Back Again" 他
7	20世紀アメリカ（1） ライマン・フランク・ボーム "The Wonderful Wizard of Oz" 他
8	20世紀アメリカ（2） フランシス・ホジソン・パーネット "The Secret Garden" 他
9	20世紀アメリカ（3） ローラ・インガルス・ワイルダー "Little House on the Praire" 他
10	20世紀イギリス（3） C.S.ルイス "The Lion, the Witch and the Wardrobe"他
11	20世紀イギリス（4） メアリー・ノートン "The Borrowers" 他
12	20世紀イギリス（5） フィリパ・ピアス "Tom's Midnight Garden" 他
13	20世紀アメリカ（4） E.B.ホワイト "Charlotte's Web" 他
14	20世紀アメリカ（5） モーリス・センダック "Where the Wild Things Are" 他
15	まとめ

評価

期末テスト（60%）、授業態度（10%）、提出物（30%）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宿子・牟田おりえ 編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年
その他、授業で適宜紹介する。

科目名	身体・スポーツと文化		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

科目の性格と概要：「身体」「スポーツ」「文化」をキーワードとして、毎回提示されるそれぞれの事象毎に、現状はもちろん、これまでの歴史や背景について学ぶとともに、これからの地域、日本、世界における様々な「身体・スポーツと文化」についての予測もまじえながら、私たちを取り巻く身近な「文化」について考えていく。

学修目標：科目領域の中で、問題意識を持ち、自ら考えながら理解していくことをねらいとする。

内容

取り上げる内容としては、「健康」「ダンス」「ラジオ体操」「高校野球」「オリンピック」「ワールドカップ」「駅伝とマラソン」...など、様々なトピックを取り上げ、「女性」との関係、「メディア」との関係なども交えながら、広い視野を獲得していく。知識を得るとともに、傾聴力、発信力なども自然に身に付くよう、前向きな取り組み方を期待する。

1	オリエンテーション
2	「体育」と「スポーツ」の違い (身体+スポーツ)
3	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 1
4	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 2
5	「身体」と「文化」 (身体+文化)
6	「ダンス」と「身体文化」 (身体+文化)
7	「体操」と「身体文化」 (身体+文化)
8	「身体」と「メディア」の関係 (身体+文化)
9	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
10	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
11	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
12	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
13	「スポーツ」と「メディア」の関係 (スポーツ+文化)
14	「身体」「スポーツ」「文化」のつながり
15	まとめ

評価

1対多の講義形式だけでなく、数回のグルーピングを通じて、問題を発見し、明確に提示しながら、理解していく形式をとるため、特に遅刻や欠席については、明確に対応する。従って、平常点および授業参加の姿勢 (60%)、毎回のアクションペーパー (25%) や提出物状況 (15%) 等を総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内で適宜指示する。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

自分のメディア力を高める！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

内容

- 第1回 何のための文章表現？
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回～第15回 まとめOut put 1～3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント） レポート・課題・・・3～8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5～10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

絵文字混じりの“ 幼い文章 ”を卒業して、“ 大人の女性の文章 ”が書けるように訓練する授業である。

誰に読まれても恥ずかしくない文章が書けるようになるためには書く練習以外に有効な方法はない。

授業時間内に出来るだけたくさんの文章を書くことに力を入れる。各自が書いた文章は添削指導する。

ハガキや手紙、挨拶文から報告書、企画提案書まで幅広い文章の構成力と執筆力を養うことを目標とする。

内容

どのような文章を書けば、自分（の心・考え）を相手に過不足なく伝えられるか。この問題意識をもって様々な文章を書いていく。

ハガキ、手紙の書き方＝「誰に、何の目的」で書くか、「書く/知らせるべき要素」は十分か、「礼を欠いた文章」を書いていないか（＝丁寧語、敬語は正しく使っているか）、など。

レポート/報告書＝読む人に“ 欲求不満 ”を起こさせるような文章を書いていないか、（会社/上司の）要求に十分応えた内容が書けているか、など。

企画書/提案書＝個人として、あるいはグループとしてイベントや商品開発、業務改善などの企画や提案をする場合、どのような内容だったら「読んでもらえるか/検討してもらえるか/採用してもらえるか」、など。

以上のような授業に取り組む。

評価

各受講生が毎回の授業で書く文章＝60点、授業への取り組み＝40点の計100点とし、60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書は授業時に随時紹介する。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

文章表現力向上の3レベル 1基礎レベル、2応用レベル、3発展レベル の最終段階の授業に位置づける。

文章がある程度書けるようになった人にとって一層の飛躍を期すために、「作文 添削」の繰り返しによるベース構築からさらに踏み込み、他人に読んでもらえる成果物を受講者が作り上げる。

表現力が豊かで説得力を持つ文章は、人に読んでもらう緊張感、臨場感の中で磨かれること

はいうまでもない。成果物を作っていくプロセスを通して、受講者の文章力を高いレベルまで向上させる。

内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業の取り組みを取材し、「埼玉メディアニュース冬季号」（仮称）を受講者全員で作成し、この中で編集力を身に付け、編集力と相互補完関係にある文章力アップにつなげる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5などが考えられる。（履修の人数を制限します）

評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社）

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。 本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的研究に基づいて、人間関係の形成、進展について理解することを目標とする。また受講を通じて、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけとなることを目指す。

内容

1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	創作表現		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目では社会で広く求められることばによるコミュニケーション能力の向上を目的とします。ことばで他者との意思疎通を図るのに重要な文章表現の基礎づくりに重点をおきます。社会で求められることばによる表現は、他者の要求を正確に受けとめ、最も適切な方法で伝えることにあります。そのために必要な文章の基礎を学び、内容に見合う情報収集・整理の仕方を知り、自分の考えを効果的に文章で伝える技術を修得します。これらをふまえて課題だけでなく、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面 (2 , 3 , 4)、必要な情報収集・整理法 (5 , 6 , 7)、社会で応用可能な文章表現の構成 (8 , 9 , 10) を学び、演習による文章表現の向上 (11 , 12 , 13 , 14) を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	創作表現		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目では社会で広く求められることばによるコミュニケーション能力の向上を目的とします。ことばで他者との意思疎通を図るのに重要な文章表現の基礎づくりに重点をおきます。社会で求められることばによる表現は、他者の要求を正確に受けとめ、最も適切な方法で伝えることにあります。そのために必要な文章の基礎を学び、内容に見合う情報収集・整理の仕方を知り、自分の考えを効果的に文章で伝える技術を修得します。これらをふまえて課題だけでなく、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面 (2 , 3 , 4)、必要な情報収集・整理法 (5 , 6 , 7)、社会で応用可能な文章表現の構成 (8 , 9 , 10) を学び、演習による文章表現の向上 (11 , 12 , 13 , 14) を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	コンピュータグラフィックス		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータを活用したメディア利用の方法に興味がある学生向けである。

科目の概要

コンピュータグラフィックスソフトウェアの操作方法を学びながら、画像の編集、描画の基礎を学習する。Webデザインやポスターデザイン等、各個人の今後のデザイン活動に有用な基礎を養う。

各個人がPCでアプリケーションを操作しながら、PhotoshopやIllustratorの操作方法を具体的に学んでいく。Webデザインやポスターデザイン等の事例紹介も積極的に織り交ぜていく。

学修目標

- ・コンピュータグラフィックスソフトウェアの基本操作ができる。
- ・コンピュータグラフィックスソフトウェアの活用場面や方法が理解できる。
- ・コンピュータグラフィックスの作品が制作できる。

内容

1	オリエンテーション
2	コンピュータグラフィックスとは
3	画像処理系ソフト(Photoshop)の概要
4	画像の加工
5	画像の合成
6	色調加工
7	描画系ソフト(Illustrator)の概要
8	描画の基礎
9	描画の応用
10	情報設計とユーザーインターフェース
11	Web制作連携基礎
12	Web制作連携応用
13	課題の発表
14	課題の評価
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点60%、課題制作40%で評価をおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化～データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット～第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング～簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4”...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～ステップ入力～キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)～スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージックは基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージックを履修していない者）のみを対象とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	アニメーション制作		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータを活用したメディア利用の方法に興味がある学生向けである。

科目の概要

Adobe Flashの操作方法を学びながらタイムラインのあるアニメーションの基礎を学習する。アニメーション制作やWebデザイン等、各個人の今後のデザイン活動に有用な基礎を養う。

各個人がPCでアプリケーションを操作しながら、Adobe Flashの操作方法を具体的に学んでいく。Webのユーザーインターフェースや、インタラクティブな広告デザイン等の事例紹介も積極的に織り交ぜていく。

学修目標

- ・アニメーションソフトの基本操作ができる。
- ・コンピュータアニメーションの活用場面が理解できる。
- ・コンピュータアニメーションの課題制作ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	コンピュータアニメーションの概要
3	Flashの基本操作
4	タイムラインの操作
5	トゥイーンの基本
6	トゥイーン的应用
7	アクションスクリプトの基本
8	アクションスクリプト的应用
9	アニメーション描画の基本
10	アニメーション描画的应用
11	情報設計とユーザーインターフェース
12	Web制作連携の基本
13	Web制作連携的应用
14	課題発表
15	まとめ

評価

授業への参画や課題への取り組みなどの平常点60%、課題制作40%で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	ナレーションA（日本語）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

文章は声に出して読むことによって、その内容をより深く理解できます。さらに、黙読では得られなかった、作者の呼吸や作品の真の味わいに近づくこともできます。日本語の音声表現の基礎を学びながら、様々な作品を読みます。画面に合わせてのナレーションや、朗読を通して、日本語の豊かさを学びます。

内容

1	音声表現の基礎（腹式呼吸・発声・発音）
2	音声表現の基礎（鼻濁音・アクセント・滑舌）
3	短い文章を読むポイント
4	画面に合わせてナレーションをする
5	文学作品を朗読するポイント
6	小説を朗読する
7	スピーチ「私の読書案内」
8	子どもと絵本の読み聞かせ
9	昔話の魅力
10	詩の朗読
11	調べを大切に読む
12	短歌・俳句の朗読
13	「外郎売」で滑舌の練習
14	朗読と日本語についての考察
15	まとめ

評価

日頃の授業への取り組み（30%）発表の成績（40%）レポート（30%）を総合して評価し、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「話しことばの花束」（好本恵著・リヨン社・定価1700円）

科目名	ナレーションB（英語）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

メディアコミュニケーション学科の専門科目のコミュニケーション選択科目。なお、ランゲージスキル選択科目の「英語音声学」では、この科目よりも時間の短い個々の音（母音・子音・半母音）を詳しくみます。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。

英語でナレーションをするには、個々の音（母音・子音・半母音）の発音にある程度自信が必要だが、英語の音連続から文の発音へと体系的にリズムとイントネーションを学んで効率よく練習をしていく必要がある。ナレーションは圧倒的に説明の平叙文が多いが、質問とその応答の多い会話を含む素材を使って体系的な練習をすることで、表情豊かなナレーションができるようになる。

ネイティブスピーカーに理解してもらいやすい流暢な発話を目指す。そのため、いきなり勘に頼ってリズムをつけようと努力するのではなく、急がば回れの言葉通り、リズム・イントネーションの特徴を頭で理解したうえで練習した方が効率がよいのである。

内容

まず、プリントの会話練習を通して、教科書前半（第I - IV, IX章）の内容（母音・子音）の全体像をつかむようにする。その後、教科書後半（第V章以降）を扱う。

第2週には、英語の歌詞の中から、各自好きなものを選んで強弱に注意してジャズチャントの様に朗読して録音物を提出する。第14週には、説明的な文章または演説から好きな1節を選んで、英語らしいイントネーションで朗読して提出する。

1	【実践練習】： 母音と子音の違いが重要な道案内会話
2	【実践練習】： 歌詞などのジャズチャント風朗読（録音）
3	V. 音の連続 その1（音節）
4	【実践練習】： 音節のリズム（長短・強弱）と高低
5	V. 音の連続 その2（/str-/などの同一音節内の子音連続）
6	V. 音の連続 その3（単語間のリエゾンなど、音連続について）
7	V. 音の連続 その4（音脱落）
8	V. 音の連続 その5（同化などの音変化）
9	VI. アクセント その1（語、句、文のアクセント）
10	VI. アクセント その2（文の中の弱音節などについて）
11	VI. イントネーション その1（音調群と核音節）
12	VI. イントネーション その2（イントネーションの意味について）
13	VI. イントネーション その3（注意すべき英語イントネーションのパターン）
14	【実践練習】： 演説や散文の朗読（録音）
15	まとめ

評価

第2週の提出物を10点、第14週の提出物を20点、期末試験（音調群の核の聞きとりなどを含む）を35点、平常の授

業参加点を35点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子著 (2008)、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。（「英語音声学」でも教科書として使用します。）

【推薦書】Judy B. Gilbert著、_Clear Speech Student's Book with

Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in

American English [Student Edition]3版 (2004)、Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は聴覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技能に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字 (ア行～サ行)
5	名前の表現
6	指文字 (タ行～ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字 (マ行～ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験 (50%)、学修目標に基づく筆記試験 (40%)、通常の授業態度 (10%) により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 ゼロからわかる手話/谷千春著/主婦の友社

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は聴覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技能に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行~サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行~ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ行~ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 ゼロからわかる手話/谷千春著/主婦の友社

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス (地域の人々が健康のために行っているダンス) を広め、指導にあたるインストラクター (ダンスムーブメント (ダンス的運動) インストラクターライセンスの受験資格) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション (様々なステップ)

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目? 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6? 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点 (授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める) 80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス (地域の人々が健康のために行っているダンス) を広め、指導にあたるインストラクター (ダンスムーブメント (ダンス的運動) インストラクターライセンスの受験資格) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション (様々なステップ) ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。
見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「ナレーションB(英語)」と「英語音声学」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修してください。

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたいと考えています。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる、という2点を目標にします。

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行います。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストがあります。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則 (偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則 (少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則 (規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト (毎回授業のはじめに前回授業の復習テストをします): 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の専門科目のランゲージスキル選択科目。なお、コミュニケーション選択科目の「ナレーションB(英語)」では、この科目よりも時間の長い発音 (音連続・リズム・イントネーション) に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。

母語の個々の音 (母音・子音・半母音) の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語を中心として、日本語との比較により発音のしくみを客観的に分析し、個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

日本人にとって混同しやすい英語の発音 (r と l など) の聞き分けができ、また、自分でも発音し分けられるようになるには、ネイティブスピーカーの発音をただ単に聞き流すだけでは不十分な場合が多いのです。まず口の各部分の動きなどを頭で理解してから、自分で聞き分けができなくても発音の区別をつけて練習していくと、だんだんと聞き分けられるようになります。発音分析には頭の体操の要素もありますが、実際に声を出して実技に取り組んでください。

1	I. 現代英語の標準発音 II. 音声器官と音の分類 IX. 綴り字と発音
2	III. 母音-短母音 その1 (母音の3つの特徴とKIT, DRESS, FOOT)
3	III. 母音-短母音 その2 (TRAP, LOTの米音, STRUTの3母音間の区別)
4	III. 母音-長母音 その1 (FLEECE, GOOSEと短母音との音色の区別)
5	III. 母音-長母音 その2 (PALM, THOUGHT, NURSE, BATHの英米音, CLOTHの英米音)
6	III. 母音-二重母音 (FACE, PRICE, CHOICE, MOUTH, GOATなど)
7	III. 母音-二重母音 (r の二重母音), 三重母音, 弱母音
8	IV. 子音-閉鎖音 (帯気とsの影響)
9	IV. 子音-摩擦音 その1 (唇歯音と歯音と歯茎音)
10	IV. 子音-摩擦音 その2 (硬口蓋歯茎音と声門音)
11	IV. 子音-破擦音と鼻音
12	IV. 子音-流音と半母音
13	発音記号に親しむ (1) 英文の発音表記練習
14	発音記号に親しむ (2) 英文朗読への応用
15	まとめ

評価

期末試験（聞き分けテストや発音記号の理解を含む）を60点、平常点（課題提出、小テスト等）を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。

[参考図書] 授業で適宜紹介します。

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	日常英会話		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	日常英会話		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	メディア英語		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットが普及した現在、情報の多くが英語でやりとりされています。

この授業では、英字新聞やそのホームページを読むための基本的な知識を学び、実際の記事を読む訓練をおこないます。また、適宜リスニングもおこないます。

辞書を片手に、やさしい英字新聞が読めるようになることが目標です。

内容

テキストは、アメリカ・ニューヨーク州で英語学習者用の新聞として出版されているNews for You紙から記事を選んでいきます。現代世界の様々な出来事や問題に対する知識、関心を深めながら読み進めていきます。授業では、毎週1つのトピックを読みます。

第1週 : ガイダンス

第2週 : Unit 1; The Euro: Still Strong After 10 Years

第3週 : Unit 2: New Rules Require Truckers to Speak Better English

第4週 : Unit 3: A Journey from the Streets to the Nobel Prize

第5週 : Unit 4: Britain Warns Public to Prepare for Worldwide Food Crisis

第6週 : Unit 5: U.S. Judges Study Science in Court

第7週 : Unit 6: A Gold Medal for the Mna Who Saved a Billion Lives

第8週 : Unit 7: Russia's President Threatens to Fire Officials Who Lack Computer Skills

第9週 : Unit 8: Germany and Poland Fight over Manuscripts

第10週 : Unit 9 :Saudi WomenReady to Take the Wheel

第11週 : Unit 10: Richardson's Death Brings Awareness to Britain Injuries

第12週 : Unit 11: Please Don't Lick the Tuna

第13週 : unit 12:The Curious History Behind "Curious George"

第14週 : unit 13:Death of Coral Reefs Would Have Global Effect

第15週 : まとめ

評価

参加態度 50%

テスト 50%

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

『やさしいメディア英語 2012/2013年度版』

大月実著、成美堂、1900円

科目名	ライティング		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英語が国際語となっている現在、社会で活躍するためには英語で自分の意見を表現する力が求められます。そこでこの授業では、ひとつのまとまった内容を英語で書く訓練をすることを目的とします。もちろん、まとまった内容を表現するためには、ある程度の長さのパラグラフを書く必要がでてきます。一文一文を文法的に書くことに加えて、英文エッセイにおけるパラグラフの概念を学び、論理的な文章を書くことをめざします。

内容

英文では論理的な思考が重視されます。そのため、英語で書かれる文章のパターンは論理の流れにしたがうことが多くなります。逆に言うと、英文エッセイのパターンに習熟していれば、論理展開のしっかりした文章を書くことができるわけです。授業では、「意見と理由」「観察と分析」「実験と結果」「賛成と反対」「比較と対比」「分類」「指示」「歴史」「原因と結果」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していきます。また、教室での演習に加えて、課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていきます。

第1週：ガイダンス

第2週：Unit 1: Conclusions/Reasons(Model Essay)

第3週：Unit 1: Conclusions/Reasons(Original Essay)

第4週：Unit 2: Analysis(Model Essay)

第5週：Unit 2: Analysis(Original Essay)

第6週：Unit 3: Theory/Proof(Model Essay)

第7週：Unit 3: Theory/Proof(Original Essay)

第8週：Unit 4: Controversy(Model Essay)

第9週：Unit 4: Controversy(Original Essay)

第10週：Unit 5: Comparison/Contrast(Model Essay)

第11週：Unit 5: Comparison/Contrast(Original Essay)

第12週：Unit 7: Instructions(Model Essay)

第13週：Unit 7: Instructions(Original Essay)

第14週：Unit 8: Chronological Order(Model Essay)

第15週：まとめ

評価

期末テスト50%、平常点(課題、参加態度)50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ(改訂版)』(石谷由美子他、南雲堂、1900円+税)

科目名	ビジネス英語		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はメディアコミュニケーション学科専門科目のランゲージスキル科目の一つで、英語教職課程の中では、英語コミュニケーションのジャンルに分類されている。

ビジネスレターの作成と関連語彙の習得 (正しい発音も含む)。

ビジネスのシチュエーション別のレターを書き、返答の文面を理解する。理解を速やかに表現へとつなげる。電子メールの一般的形式もレターとあまり変わらない、分かりやすさを重んじた英語である。口語による英語表現もできるように、発音も重視する。

内容

出版社の情報では、この教科書は「米国パソコン市場への参入を目指す日本企業が、米国の大手販売店と協力関係を確立しビジネスを展開するという一環した流れに沿って、ビジネス英語を学習する」教材となっています。「新市場開拓から社交に至る状況設定のもと、各章は相互関の往復文書で構成され、ライティングと読解能力を習得」できます。適宜、会話にも使えるようにするために、ビジネス英語の語彙の発音にも注意して練習します。

1	1章 市場開拓 (説明と照会)
2	2章 説明 (引き合い)
3	3章 オファーとカウンターオファー
4	4章 交渉と契約
5	5章 信用状開設 (依頼と説明)
6	6章 船積みスケジュール (説明と要請)
7	7章 調整とトラブル連絡
8	8章 誤送品の売り抜き (依頼と提案の受諾)
9	9章 市場動向 (照会と報告)
10	10章 値下げと一手販売店契約 (提案と興味の表示)
11	11章 出張 (契約の交渉と締結)
12	12章 人事異動 (連絡と昇進祝い)
13	13・15章 社交 (招待・出欠問合せと出席後の礼状)
14	14章 記念式典の開催と出席後の礼状
15	まとめ

評価

以下の割合で点数化し、60 %以上を合格とする。

- まとめの成果： 60%
- 平常点： 40% (小テスト、予習、課題提出)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小西和久著、『フローで学ぶ国際ビジネス英語 英文レターの書き方・読み方(The Flow of International Business Correspondence)』、朝日出版社、定価：1,733円（本体1,650円+税）

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科における選択必修科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリスニング力を養成することを目的としている。

科目の概要

全15回の授業では、おもに、現代の日本を海外に紹介する番組 (NHK衛星放送) を扱う。各回で、ニュース英語のリスニングに必要なボキャブラリーや重要構文などを確認する。それらの知識に基づき、視聴覚メディアから英語を総合的に理解するスキルを習得することを目指す。

学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英語ニュースを聞き取り、要点を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。(毎回単語テストを実施する。)
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

内容

指定の教科書に基づき、以下のスケジュールで授業を行う。

1	イントロダクション
2	Unit1 Messenger of Hope
3	Unit2 Swim-assist Suits
4	Unit3 Left-hand Serenade
5	Unit4 Picture Card Comeback
6	Unit5 Support Across the Pacific
7	Unit6 Switching Over
8	Unit7 Micro Miracle Workers
9	Unit8 Light Savers
10	Unit9 Sushi Chefs Cast Abroad
11	Unit10 Drawing in Sales
12	Unit11 Thinking Outside the Box
13	Unit12 Value Added Goods Plus Service
14	Unit13 "Downshifting" on the Rise
15	まとめ

評価

期末試験（60％）、単語テスト（20％）、平常点[課題提出、授業態度]（20％）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎達朗・他著 『What 'on Japan 6』金星堂

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科における選択必修科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリーディング力を養成することを目的としている。

科目の概要

授業では、近年国際的な注目を集めている日本のポップカルチャーについて取り上げた新聞やエッセイ、論説文など、ジャンルの異なる様々な英語の文章を扱う。各回で、リーディングの基礎となるボキャブラリーや重要構文などの基本項目から、パラグラフの構造理解などの応用事項までを総合的に扱い、多様な英語メディアからの情報収集を可能とするような読解力を習得することを目指す。

学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英文を読み取り、概要を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。（毎回単語テストを実施する。）
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

内容

1	イントロダクション
2	日本のポップカルチャー外交（1）
3	日本のポップカルチャー外交（2）
4	アメリカにおける日本のアニメ受容（1）
5	アメリカにおける日本のアニメ受容（2）
6	日本のサブカルチャーへの視線（1）
7	日本のサブカルチャーへの視線（2）
8	海外に進出する日本の「女の子」（1）
9	海外に進出する日本の「女の子」（2）
10	海外に進出する日本の「女の子」（3）
11	アメリカ人が見る宝塚（1）
12	アメリカ人が見る宝塚（2）
13	ニューヨーカーの日本映画批評（1）
14	ニューヨーカーの日本映画批評（2）
15	まとめ

評価

期末試験（50％）、単語テスト（20％）、平常点[課題提出、授業態度]（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、英語能力試験であるTOEICテスト及び英検 2 級受験のための、準備クラスです。前期は TOEIC テスト、後期は英検が対象となります。

文法、リスニング、読解を総合的に学習して、実用的な英語運用能力を向上させ、TOEIC テスト及び英検に対応できる力を養成します。英検のクラスでは、一次試験対策に重点を置きます。

TOEIC テストでは400点以上のスコア取得を目標とし、英検では 2 級取得を目指します。

内容

TOEIC テストあるいは英検の出題形式に沿った問題演習を行い、ポイントとなる点を取り上げて解説していきます。また、基本的な文法事項の確認も行います。知識の定着を図るために、授業で使用するテキストから隔週で文法と語彙に関する小テストを実施します。授業には積極的に参加し、予習・復習を行うようにしてください。

講義計画

(前期)

- | | |
|--|--------------------------------|
| 第 1 週 Living Arrangements 「自動詞/他動詞」 | 第 2 週 Entertainment 「時制」 |
| 第 3 週 Traffic and Transportation 「能動態/受動態」 | 第 4 週 Travel 「助動詞」 |
| 第 5 週 Office Work 「不定詞/動名詞」 | 第 6 週 Marketing 「現在分詞/過去分詞」 |
| 第 7 週 Purchasing 「類義語」 | 第 8 週 Technology 「長文穴埋め問題」 |
| 第 9 週 Personnel 「類義語」 | 第 10 週 Finance and Money 「関係詞」 |
| 第 11 週 News Media 「関係詞」 | 第 12 週 Press Release 「接続詞/前置詞」 |
| 第 13 週 Research 「接続詞/前置詞」 | 第 14 週 Environment 「長文穴埋め問題」 |
| 第 15 週 | まとめ |

(後期)

- 第 1 / 3 / 4 / 6 / 7 / 9 / 10 / 12 週 短文の語句空所補充・短文中の語句整序・長文の語句空所補充・長文の内容一致選択・リスニング
- 第 2 / 5 / 8 / 11 週 短文の語句空所補充・短文中の語句整序・長文の内容一致選択・リスニング
- 第 13・14 週 模擬問題
- 第 15 週 まとめ

評価

以下の割合で点数化し、60%以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 前期・後期試験： 60%
- (2) 平常点： 40% (授業への参加度・小テスト・課題提出)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】(前期) 上條武, Braven Smillie 著 『BEST SHOT FOR THE TOEIC T

EST TOEICテスト攻略への最短アプローチ』金星堂

(後期) 坂部俊行・岡島徳昭・ウィリアム ノエル著 『英検 2 級 合格への道』南雲堂

【参考図書・辞典等】授業で適宜紹介します。

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

基本的な文法の運用力 (Grammatical Competence) をつけ、場面や状況による応答能力 (Sociolinguistic Competence) もある程度つける段階までが目安です。このため、500点以上が受容 (receptive) 能力の最高位に位置すると考えられます。このため、基礎力に穴が無いが再点検する必要があります。それは、英語の運用を考えれば、やっと到達できる TOEIC ではなく、さらに高得点につながる点数でなければ意味がないからです。

内容

1. 導入 TOEIC600 点の正答率と他の試験との比較
2. リスニングパート (1) 写真
3. リスニングパート (2) 会話
4. リスニングパート (3) 説明
5. リスニングパートまとめ
6. 語彙 (1) 認知語彙
7. 語彙 (2) 運用語彙
8. 語彙 (3) まとめ
9. リーディング (1) 新聞
10. リーディング (2) 広告
11. リーディング (3) 説明
12. リーディング (4) 図解
13. ライティング (1)
14. ライティング (2)
15. チェック

評価

毎回の小テスト (30%)、最終日の総チェックテスト

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

森田勝之著 The TOEIC test Target 500 and Beyond、金星堂

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ実習」履修の事前授業である（「インターンシップ実習」を履修する場合は必ず履修すること。社会情報学科生およびコミュニケーション学科生も「インターンシップ」を履修する場合は、必ず履修すること。心理学科生で「インターンシップ」を履修する場合は、可能な限り履修すること）。

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス (講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	ビジネスマナー講座 1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
4	ビジネスマナー講座 2 常識
5	企業のインターンシップ 1 営業・販売 (リコー・丸文堂・丸正飯塚などの担当者 + 学生)
6	企業のインターンシップ 2 外食・食品 (ケンタッキー、スカイラーク、佐藤農園など)
7	企業のインターンシップ 3 メディア系 (トップシーン・つばさエンタテインメント、東急ア)
8	企業のインターンシップ 4 情報系 (夢科情報、クレッシェンド、東和エンジニアリングなど)
9	企業のインターンシップ 5 出版系 (NHK出版、あさ出版・埼玉新聞社などの担当者 + 学生)
10	企業のインターンシップ 6 金融・企画系 (りそな銀行・東急不動産などの担当者 + 学生)
11	自治体のインターンシップ (和光市役所、志木市役所、新座市役所、朝霞等の担当者 + 学生)
12	グループによる業界研究及び報告1
13	グループによる業界研究及び報告2
14	自分の適性を知り、自己PRを作成する
15	自己PRを1分間で発表、まとめ、授業評価

評価

レポートの内容(60%)、グループワークやその報告の内容(20%)、授業態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、提示する。

科目名	インターンシップ実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。本科目を履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

10日・70時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての過程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講した学生が受講可能。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込 : 「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導 : 「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員 : 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例 (2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど

評価

学生 : 実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先 : 受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導 : 実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート (40点)、受け入れ先評価 (40点)、教員による巡回指導の状況確認 (20点) の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	社会人基礎力		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。また、企業が求めている実践的なPCスキルをMOS検定対策の勉強をしながら身につけてもらう。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 MOS対策
- 13回 MOS対策
- 14回 MOS対策
- 15回 まとめ

評価

成績は、授業後の振り返りシートと、課題を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。また、企業が求めている実践的なPCスキルをMOS検定対策の勉強をしながら身につけてもらう。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 MOS対策
- 13回 MOS対策
- 14回 MOS対策
- 15回 まとめ

評価

成績は、授業後の振り返りシートと、課題を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。また、企業が求めている実践的なPCスキルをMOS検定対策の勉強をしながら身につけてもらう。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 MOS対策
- 13回 MOS対策
- 14回 MOS対策
- 15回 まとめ

評価

成績は、授業後の振り返りシートと、課題を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。また、企業が求めている実践的なPCスキルをMOS検定対策の勉強をしながら身につけてもらう。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 MOS対策
- 13回 MOS対策
- 14回 MOS対策
- 15回 まとめ

評価

成績は、授業後の振り返りシートと、課題を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	松永 修一、北原 俊一、川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。また、企業が求めている実践的なPCスキルをMOS検定対策の勉強をしながら身につけてもらう。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 MOS対策
- 13回 MOS対策
- 14回 MOS対策
- 15回 まとめ

評価

成績は、授業後の振り返りシートと、課題を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名	橋本 ヒロ子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

科目の概要

本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

学修目標

基礎的な非言語領域(数学、算数)および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。3年次には「キャリア基礎力応用」を履修して就職試験に対応する力を養う。

内容

1	4/12 ガイダンス、チェックテスト	必ず受験してください。
2	4/19 非言語	テキスト
3	4/26 非言語	
4	5/10 非言語	
5	5/17 非言語	
6	5/24 非言語	
7	5/31 非言語	
8	6/7 非言語	
9	6/14 非言語	
10	6/21 非言語	
11	6/28 言語	
12	7/5 言語	
13	7/12 言語	
14	7/19 前期まとめ	必ず受験してください。
15	7/26 非言語	

評価

テストの結果ならびに受講態度

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

1回目の授業で指示する